

# 協議会ニュース

35号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

1991.9



・葉はミズナミに似るが  
葉柄がある

・堅果の大きさは  
まだ小梅ぐらゐです

## ナラガシワ

1989.9.13 (フナ科)

一宮市光明寺緑地内に  
数本あります。

春(4月)待ちに待った芽吹き  
のドラマは刻々と吹き出します。

夏は掌ぐらゐになつた葉が幾重  
にも重なり、野鳥観察の途中  
樹陰でホッと一息します。

晩秋から冬にかけて、オレンジ赤  
に紅葉し、

そして年内はパツと落葉します  
又夏は昆虫達の酒場となり  
冬は野鳥達のいこいの場となります。

妙興寺境内のナラガシワは  
どんぐりが殊に大きい。

近年おとろえてきました。

絵と文 後藤 春

## 豊川右岸の扇状地と水無川

池田 芳雄 (協議会顧問)

「水無川」は、長崎県・雲仙岳の火砕流によって、知らない人はいないほど有名(?)な川になりました。しかし、今回の火山災害が発生する前の水無川に関しては、演歌の歌詞として聞いたかなという人があった程度で、全く無名の川だったと思います。

地形学辞典で水無川を調べると、おおよそ次のような説明があります。「ワジ」…アラビア語で河谷の意味。アラビアやアフリカの砂漠地帯では、降雨があると、一時的に河川を生ずるが、河水はたちまち枯渇して通常は広い河原を残すのみである…と。水無川は、わが国のワジです。ワジとしての水無川は、雲仙に限らず各地の扇状地で見られます。扇状地は、谷口を頂点として平地へ向かって扇状に開く半円錐形の地形です。風化侵食によって削られた山地の岩片は、谷川の水によって運搬され、山麓へ大量の砂礫となって堆積します。この扇状地の土

(扇面)を流れる川の場合、降雨の直後は流水を見ますが、間もなく浸透(伏流)して、水無川となってしまいます。

さて、その扇状地ですが、豊川右岸の本宮山の山麓には、北東から南西へかけて美事に複数に発達しているのを見ることができます。このように幾つかの扇状地が、横一線に並んでいる状態を「複合扇状地」と呼びます。

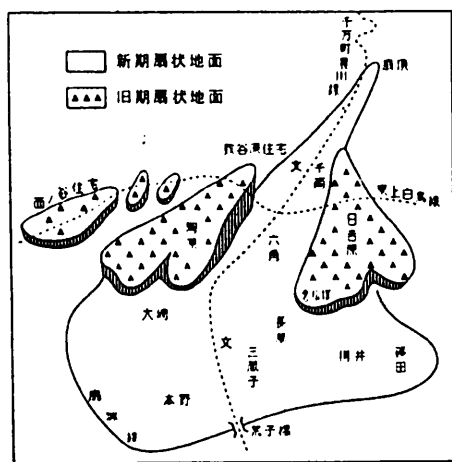
宝飯郡一宮町と豊川市の北部では、標高100m 付近を最高部（扇頂）として、平均勾配千分の20ないし30で、南へ向けて扇面を広げています。そして、標高50m 付近で扇端となり、一宮町では、高さ数mの崖を形成しています。扇面には、才原、西原、日吉原（自衛隊演習場）などそれぞれの名称があります。

これらの扇状地の堆積面は、土壌も赤色化が著しく、その上、乏水性（水無川）のために、戦前は秣場<sup>まぐさば</sup>や生産性の低い原野が広がり、古墳

群以外には、ほとんど見るべきものはなかったようです。ところが、戦中戦後の食糧増産で開拓が進み、さらに最近では工場進出の影響もあって開発が急で、大きな変貌をとげ昔日の面影はありません。

この豊川右岸の扇状地をさらに詳しく調べると、古い扇状地の扇央（中央部）を侵食して、そこへ新しい扇状地が重なった地形も見られます。図に示したのは豊川市に発達する佐奈川扇状地の例で、このようなものを「合成扇状地」とか「親子扇状地」と呼びます。古い扇状地は旧期扇状地、新しい扇状地は新期扇状地とも呼びます。後者の規模は、扇頂から扇端まで約5 kmあります。

この扇状地を流れる佐奈川の「サナ」は、七輪のサナが灰を落とすように、扇状地を流れる水が地下に浸透してしまう意味に通じると言われています。佐奈川は別名「三日川」とも言い、これは雨後の二・三日は流水を見るが、その後は水無川になってしまうことから名付けられたと聞いています。改修以前の佐奈川は、大雨のたびに氾濫し、野水となって当地に大きな被害をもたらしたようです。水無川は、雲仙に限らず自然の恐怖と驚異を示しているのです。



佐奈川扇状地の概念図

## 五条川と津島神社

尾張支部 齋竹善行

私が住んでいる岩倉は、平坦な土地に農地と市街地が広がり、その中を南北に五条川が流れているという典型的な沖積平野の中の町です。

市街地にはまとまった樹林地がないのに、近年は土地区画整理や土地改良により農地の改変がいっそう進み、五条川も河川改修で護岸がコンクリートで固められ、自然はますます失われつつあるというのが実態です。

「自然観察」という面から見ると、大してとりえもないことから、かつては小牧山や犬山の善師野まで出かけて野鳥や植物をながめていましたが、よくよく見てみると、岩倉の中にも「身近な自然」があることに気が付きました。

川沿いに桜並木が続き、護岸も人工化されたとはいうものの岩倉のシンボルともいえる五条川、小規模ながらもわずかに残された社寺林、ある程度木が成長してきた名神高速道路の盛土の法面、それに農薬の散布がされなくなったため、いろいろな生物が見られるようになった休耕田などがそのような場所です。今回は、この中から五条川と社寺林として津島神社を紹介してみたいと思います。

### ① 五条川

五条川は犬山市に源流を持ち、大口町、江南市、一宮市、岩倉市へと流下し、さらに下流の甚目寺町で新川に合流する延長約28kmの河川です。岩倉南部の名鉄の駅大山寺付近から上流の五条川に沿っては、尾北自然歩道が整備されております。私ももう少し若かった頃はここをジョギングしておりましたが、その頃は周りの自然を楽しむ余裕はありませんでした。近年は歳のせいでしょうか、もっぱら散策のため、川沿いの自然を観察することができるようになりました。

尾北自然歩道沿いの川の両岸にはソメイヨシノが植えられ、春の花見の時期には桜まつり

も催され華やかな風景となりますが、植生は単調で面白みはありません。かつては岸辺にジュズダマやオナモミが茂り、虫も多く見られましたが、最近の河川改修に伴い、これらの植物が取り除かれ、代わりにシバがはられてしまいました。

また、6月の環境週間に、ニシキゴイが放流されることから、川のいたるところでその泳ぐ姿が見られますが、自然観察という面では興ざめなものです。

それでも、岩倉で数少ない水辺ということもあり、いろいろと楽しい光景にも出会えます。

川面を飛ぶルリ色の宝石カワセミ、水際でえさをついばむタゲリ、ケリなどのシギ・チドリ、桜並木で翼を休めるコサメビタキやジョウビタキ、川沿いの竹林のねぐらに集まるコサギ、ゴイサギ・・・いろいろな野鳥がみられます。

水の中ではフナやオイカワが泳ぎ、イシガメの姿やウシガエルの鳴声も楽しめます。いつか、大雨で増水したときには、オオサンショウウオが流されてきたのを見かけましたし、巨大なネズミの仲間のヌートリアにも出会いました。

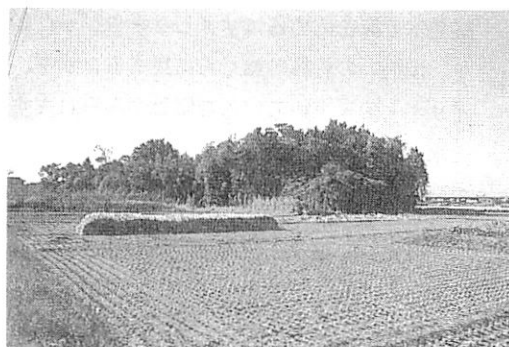
私たちは、時間に追われ、つい見逃してしまいがちですが、都市の中にもこのような貴重な自然の空間があります。まったく、人手を加えないというわけにはいかないでしょうが、このような身近な自然をもっと大切にしたいものです。



桜の咲いた五条川

## ② 社寺林：津島神社

岩倉には神社やお寺は幾つかありますが、皆小さく、社寺林といえるような林を持つものはほとんどありません。津島神社は一宮市に近い岩倉の西の端の水田に囲まれた中にあり、その社寺林は規模はほんのわずかなものですが、比較的自然的なままに近い樹林地です。林を形成する植物には、高木層としてシラカシ、クロガネモチ、ヤブニッケイ、ムクノキ、モチノキ、スギ、ヒノキなどがあり、林の縁はフジ、アケビ、クズなどが覆ってマント群落を形成しています。亜高木・低木層にはさまざまなものがありますが、タラヨウやカマツカも見られます。



津島神社の風景

まわりが水田のため、小さな林ですが割合良く目立ちます。そのためでしょうか、春秋の渡りの時期にはいろいろな小鳥たちが翼を休める場所となっているようです。カッコウ、オオルリ、コルリ、クロツグミ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、コサメビタキなどが観察されています。

林の中に入ると、常緑樹が主体のため昼でも薄暗く、湿った感じがし、深い森の中にきたかのような錯覚を覚えます。ヒメボタルでもないかと6月の夜に搜してみましたが、残念ながら見付けませんでした。それでも、その時シラカシの幹には、カナブン、コクワガタなどの甲虫やヤマトゴキブリが集まり、樹液を吸っているのが見られました。朝になると、虫かごを

持った子供達がやってきて、シラカシの周りの落ち葉をさばいて、クワガタムシを搜したり、捕虫網でアブラゼミを捕まえようとしている姿も見かけます。昆虫好きの子供達は、町の中で暮らしていても、どこに身近な自然が残っているかよく知っているようです。

今、この津島神社のまわりの水田で、農地の整備が進められています。道路が拡幅され、素掘りの水路がコンクリートのU字溝に変わっていきます。こうしたことに伴い、この神社の林にも影響が出るのではないかと思います。自然とのふれあいということがいわれながらも、その一方で、自然が壊されつつある現在、なんとかこのような身近な自然を守る道はないものでしょうか。



## 愛知・三重両県協議会合同行事Part II

### 秋の藤原岳で花を見よう会

日時：9月22日（日）9時～16時30分

集合：午前9時三岐鉄道西藤原駅前

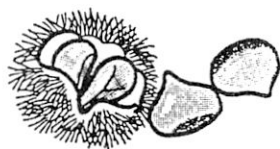
コース：駅⇒坂本谷⇒白瀬峠⇒藤原岳9合目  
⇒大貝戸登山道⇒駅

見どころ：秋の草花超多数（ミカエリソウ・  
テンニンソウ・オオカニコウモリ  
など）

その他：雨天決行（コース変更あり）

おまけ：三重県はかなりの人数が参加します  
ので、愛知県も負けず一人でも多く  
参加しましょう！

問い合わせ：北岡明彦 ☎0561-84-2953

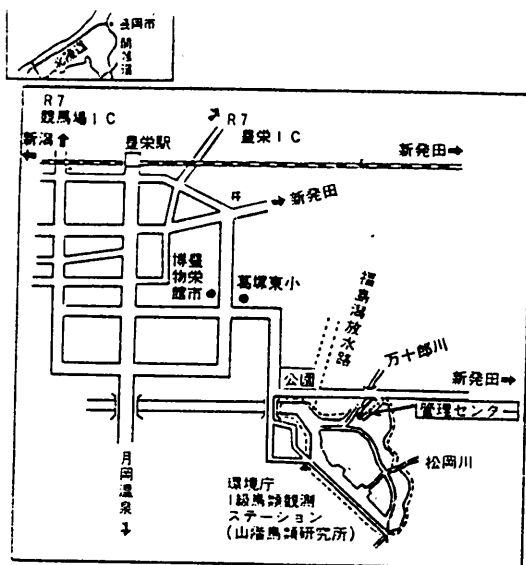


中西 正

潟の水はぬかれたような感じで、池というより湿地のようでした。干拓は現在も進められているらしく、観察所の近くにも大型の土木機械が置かれていました。観察所までは、真っ直ぐの取り付け道路でしたがこの道も干拓によってできた陸に着けられたものに違いありません。

ハクチョウは潟の中では観察できませんでした。しかし、車から見える周辺の田んぼのあちこちにハクチョウの家族が餌をついばむのが見られました。3月の声を聞けば、もう多くの水鳥が北を目指して帰り始めていますが、ハクチョウにも辛うじて間に合いました。

☎387-3401 豊栄市企画課



# 自然だより



シンプル イズ ザ ベスト

尾張支部 岩田不二子

四十年近くも以前の事です。或る日、岩田の父と生け花展を鑑賞に行きました。会場は大勢の人で静かな賑わいを見せていました。それぞれの生け花は、自然の中の美しい部分を切り採って、深山幽谷のたたずまいを見事に展開させていました。露を帯びた一枝一枝が所を得て、瑞々しく生き生きとしていました。自然その儘ではないけれど、それぞれの人の描いた理想の自然がそこにありました。人目を驚かす大袈裟なものは一つもなくささやかな半間、一間の床の間に相応しい風雅な作品ばかりでした。

この日、流派の頂点に立つ宗家の花は、黒っぽい鶴首の壺に貝母百合が二本だけ。一本は末枯れかけた花をつけ、一本は蕾と開いたばかりの花が初々しく小首をかしげていました。哲学的な雰囲気さえ醸し出して、さすが僧籍に身を置く作品と今も心に残っています。

見終わって父は、「うーん、よう歩いてあるなあ。」と独り言のように呟き、続けて私に言いました。「昔から花は、足で生けよといっってなあ、山や野を歩き廻っていい枝振りを探してきて生けるものなんだ。今日のはよう歩いてある。花屋の花だけじゃあないな。」と。

珍奇な花々を世界中から空輸して、これでもかこれでもかと盛り上げた最近の生け花展を父が見たら何というのでしょうか。「えらい金がかかっとなる、これは花屋の花展だな。」そういって笑うと思います。シャンデリヤ輝く広い洋間にこそ似合う花達ではないでしょうか。

野山を歩く代わりに、花木を植え続けた父に倣って私も色々集めました。風土に合わなくて無くなったものも多いのですが、兎小屋には、庭の木一・二本と路傍の草花が二・三本あれば充分です。花は野にあるように、これは利休さまの教えです。古いといわれても、私は相変わらず、シンプル イズ ザ ベスト。

## 豊田市自然観察の森だより

長尾 智

「豊田市自然観察の森」設置の目的の一つに自然の保全が挙げられます。しかし、多くの人々が入り込みますので、多少の荒廃はしかたのないことだと思っています。せめて意思的に荒らすことだけは避けたいものです。

現存する動植物をいつまでも残していくための基礎データをつくるため、指導員を中心に調査を始めることにしました。今のところ植物では、樹木・草花の開花・結実の時期を調べること、動物では、昼間の巡回、ペイト及びライトトラップによる昆虫の種名調べぐらいしか行っていないんですが、数年のうちには、水生生物や哺乳類まで調査対象に加えたいと、スタッフ一同はりきっています。

これらのデータをもとに、充実した観察会が企画できるようにもしたいと考えています。

## ものみ山だより

尾張支部 北岡由美子

海上の森は夏真っ盛りで、草いきれが子供の頃にひとたび帰らせてくれます。

8月4日(日)に“夏の昆虫探偵団”自然観察会を催しました。親子での参加者がほとんどでめいめいタモを振り回して楽しみ、オニヤンマを捕まえたなかなかの使い手の子供もいました。サワガニを初めクワガタやカブトムシもたくさんいて、参加者は大喜びしました。そのうえ、山頂ではオオムラサキも確認でき、昆虫の宝庫ものみ山を実証した感がありました。

観察会と並行して、山頂と海上部落で毎時の気温測定をしたところ、両者ではほぼ4度の温度差がありました。

また、山頂の草むらにはキキョウが咲き、静かな夕暮れの景色の中でここが今のまま残ればどんなに素晴らしいことかと、毎度のことながら思わずにはいられませんでした。皆さんにも是非一度登っていただきたいと思います。

## 私と自然

名古屋支部 鈴木晃子

3,000m級の山に登り見上げると、よく晴れた日ならば、青いというよりは、紺碧の空が広がる。鳥肌が立つような空の色。夜になると、満天の星が降りてきて眩暈をおぼえる。じっと見ていると、気が狂うのではないかとさえ思えてくる。海へ行き、押し寄せる波をみていると、体中の細胞がふつつつと沸き立つような気持ちになる。

もっと若いときには、こんな圧倒的な自然が好きでした。でも、今は雑木林や田圃のそばを流れる小川のような自然が好き。そこに行けば虫や鳥がいて、小さい頃からずっと見慣れてきた木や草があって「ただいま」って言いたくなるような身近でやさしい自然です。（身近ということは物理的にも精神的にも近いということですね）その身近な自然もふとがついたときには、本当に少なくなっていました。あたり前だと思っていた風景画、あたり前ではなくなって、いまでは「貴重な自然」になってしまいました。

コレハオカシイ。コンナノッテアル、アリ？

大学時代に暗い生活（くる日もくる日も、実験室、電顕室、暗室で過ごした）をおくっていた反動でしょうか。フィールドに出掛けるのは楽しいし、お日様の下で、生き物たちに出会うとうれしくなってしまう私です。

## 私の自然感

名古屋支部 福西寿広

いやあ、暑いですね。今年の梅雨はなんだか真夏みたいに暑いような気がします。そう思いませんか。こう暑いと、涼しい山や海に出掛けたくるのが人情というものですが、私の場合はもっぱら山です。汗水たらして、ヒイヒイ言いながら登っているんですから、ちっとも避暑にならないようですが、楽しみは登った後のビール。これが旨い。はっはは、ビールのこ

とは本題とは全然関係ありませんが、梅雨の晴れ間を狙って、志賀高原に行ってきました。

志賀高原というとなずスキー場のイメージですから、スキーシーズン以外に出掛けられた方は少ないと思いますが、2,000m級の山が幾つかあって、自然歩道が整備されているので整備されているので、この時期にはハイカーや観光客の人達が来ています。冬季オリンピック会場問題でもめた、岩管山に登ってきたのですが、ここでは山登りの事ではなく、その時感じたことをお話ししたいと思います。

東館山のゴンドラ駅舎を出たところに高山植物があって、いろいろな高山植物が名札を付けて展示栽培されているのですが、花の時期には少し早くて、ただ、シラネアオイの紅紫色の大輪だけがとても目立ってました。高山植物のように、比較的成育環境が限定されているものは、その環境から切り離してしまうと、もはや生きてはいけません。それを可能にしているのは人為が加わっているからですが、それは本来の自然状態と違うことは明らかです。動物園のライオンを見て自然を感じる人は余りいないと思いますが、この場所の植物園だとそうとも言い切れません。美しいものを見ることは悪いことではありませんし、自然の中に色々な植物があることを知ってもらうのもいいでしょう。しかしシラネアオイを見て「自然っていいわねえ」と呟かれてはちょっと困るのです。花の色や形をめぐるだけではなく、それが生きていく環境にまで想いを馳せてもらわないと、片手落ちというものです。感動していただくなら、ここではなく、林の中か雪溪の縁でこの花がニッコリ微笑んでいるのを見つけた時をお願いします。結局2日間歩いて、この場所以外で見かけることもなく、このことをぼんやり考えながら山を降りてきました。



怪物ブルトーザーがやってくる。

名古屋支部 浅井聡司

阿久比でイタチを見た日、イタチの住みかが奪われる話を聞いた。

山は削られ、池は埋められる。

先祖が開いた棚田は姿をかえ、ミカン畑はつぶされる。

先祖が植えたヒノキ・スギも切り倒される。

あのタケヤブから、もう竹の子はでない。

このヤマモモの木は、来年赤い実を成らすことはない。

畦道に咲く

スマレ・タツナミソウ・ノカンゾウ・コオニユリ・アザミの花も見られなくなる。

溜め池のスイレンの花はもう咲くことはない。

溜め池の中で泳ぐ、メダカやスジエビの姿を見ることはできなくなる。

あの池に産み付けられたトンボの卵からヤゴはかえらない。

ミカンの木に産み付けられたアゲハチョウの卵はかえらない。

セミの幼虫も土の下で死に絶える。

カエルの鳴き声も今年で聞き納めだ。

ザリガニ釣りもできなくなる。

ホタルも消えてしまう。

来年、この木陰で休むことはゆるされない。

土地改良事業・基盤整備事業が始まる。

ブルトーザーの怪物がやってくる。

生物たちのジェノサイドがあと3ヵ月ではじまる。

人間と自然が共生してきた田舎の風景が消え、緑が剥ぎとられ、土が剥出しになった景観が作り出されようとしている。

阿久比町大字阿久比から自然から消える。

数多くの生物の命が奪われる。

この事実を子供達にどのように伝えようか。



自然観察会の中から

佐野 滋

青少年の野外活動に情熱を燃やし、少年たちと自然を愛護し社会に奉仕できるキャンプ精神と技術とともに研鑽していた私が、ひょんなことから自然観察会や探索会に参加したり、お手伝いするようになって8年たちました。

その中で多くの師を得、友を得ることができましたが、それはすべて「自然」を仲立ちとしていることに改めて気づき今更ながら「自然」というものの持つ重大さ、大きさに驚いています。

自然は、今

現在、フロンガスや熱帯雨林の伐採、海岸汚染、酸性雨など、自然保護が地球的規模で叫ばれています。「自然」とは何か、という難しい問題の論議はともかくとして、素人の私でも、思わず嘆きの声が出る事象が幾つかあります。

他人ごとではなく、私たち自身の破棄するビンやビニール、洗剤の行方も気にしなくてははいけません。

観察会は、今

こうした中で、私が参加したり、お手伝いしている観察会、私がよくでかける中部山岳国立公園上高地での様子などを、自分自身への反省や自嘲をこめてみたいと思います。

- (1) 名前にこだわり型 — 分類中心の会もあっていいが、珍種が紹介されると後日なくなっていることが多い。
- (2) 名所駆けめぐり型 — 予め主催者や講師設定の場所へ案内、解説。参加者はメモもとるが、写真を撮りまくって次へ。
- (3) 軍隊行進型 — 上高地へ入る地元バスガイドさんの話では、時間をかけていくのに上高地そのものの平均滞在時間は1時間以内が一番多いとのこと。よく入るようになった中・高校生の修学旅行。梓川の河畔を制服で行進してくる様は異様、圧観。
- (4) 放任型 — 「自然の中で遊ばせる」のはよいが、テントの中で昼間からトランプ。ラ



ジカセががん。川の音、鳥の声など問題外。

(5)ウォークラリー型 — 工夫を凝らしたものが多い一方、ポイント探しに夢中。

(6)ネイチャーゲーム型 — いろいろ工夫されているが、只それだけで終わる危険性がある。

(7)冒険学校型 — 5日から10日近くまで、公私いろいろ。時間のゆとりがあるのが強み。充実した周到なカリキュラムとよい指導者、適地が大切な条件。原始体験、奉仕の清掃活動などとりいれると若い世代にはよい方法の一つと思います。

こんなタイプ分けをしてみたのは、現在の人間の自然に対する過酷な対し方、金になればなんでもやる企業の姿勢、ダム、飛行場、ハイウェイなど「公」の字がつくと、訴訟を起こしてもほとんどが行政側に立つ解決が強制される現状。

そういう現状に対してわたしたちの観察会は、対応できているのか、何か力になり得ているのか。

観察会は楽しく、と誰もが言うが、楽しんでいるだけではないか——そういう私自身の反省や懸念からなのです。

私たちは、今

ではどうすればよいのか。観察会も難しい側面があるが、手を拱いては一步も進まない。今は、「進むべきではないか」と。

そのためにはまず、自然教育や観察会の意義を再認識する必要がある。

(1)人間は、自然の命を食べてはじめて生きられる。自然に支えられて生き延びてきた。大自然への感動と畏敬の念へのアプローチこそ原点ではないか。

(2)その自然界によって発生以来脅威であった人類は、今、自分自身をも滅ぼしかねない破壊的所業を積んでいる。不遜な人間に天罰も下りつつある。

(3)今こそ守べき自然の存在に気づき、心して、

人間の側の慎みを持つべきだ。マナーとモラルを再認識すべきだ。

(4)そのため心ある人は、「この失われつつある自然をできる限り保護しよう。」この言葉を合言葉に、それぞれの場で努力しようではないか。

(5)知識がなくて、名前を知らなくて、とよく言うが、ここに立てばよい。自ら研修励みつつ、自然から学び、自然に感謝し、自然を大切にという心で実践を積んでゆこう。

実践の中から

観察会は、どこでも行える。身近なところこそ意味もある。よりよい都市空間を作ることにも保護の一環だろうから。そういう意味で私たちは、発言してゆく必要がある。公私が知恵を出し力を合わせた河川改修、石垣、並木道もほしい。一方、足しは、原始景観、原風景、原生林といったものの重みを改めて感じている。

今日私たちは、自然にふれる場合、様々な形で人を介している場面が多い。

よき案内者、先導者、レンジャーの皆さんが育ち、深く広い洞察力で「人と自然」のあり方を教えてほしい。

自然だより

奥三河支部 石川静雄

8月上旬、新城地方の野原や山麓にキツネノカミソリ（ひがんばん科）の花が一斉に咲き始めました。分布は限られていますが花の少ない真夏の野原に咲く黄赤色の小花は目立ちます。有毒植物ですが、変わった花の姿、珍しさについていさわってみたり写真におさめておきたい衝動にかられます。開花の時期は当地方ではほぼ例年並みのようです。



# 観察会報告

大白川国有林観察会に参加して（6月8日）

尾張支部 秋山葉子

テルテル坊主のお蔭もあって、6月8日は好天に恵まれました。午前2時半1、一行14名とそのファミリーは美濃市役場前に集まり、御母衣ダムの北にある平瀬温泉へ出発しました。

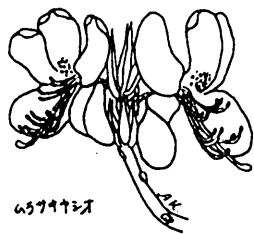
蛭ヶ野分水嶺公園で小憩、水辺はクリンソウ・リュウキンカの花盛り、サワフタギも真っ白な花をつけていました。

午後6時過ぎ、平瀬温泉白山館に到着しました。豊富に湧き出る温泉にゆったりと入り、珍しい「落人料理」に疲れもとれました。

9日、空は青く晴れ、風爽やかにいいお日和です。午前8時半出発、15キロ東の大白川キャンプ場に向かいます。

賑やかなエゾハルゼミの大合唱に迎えられ、キャンプ場に到着。ブナ林の若葉を通した明るい光の中に、ノウグウイチゴの花の白さがひときわ目にしみます。オオタチスミレ・ミヤマスミレ・オオバミゾホオズキ・マイズルソウなど色彩豊かな林床です。小さな池には黒山椒魚の卵塊が、1個がピンポン玉程の大きさです。そして、その傍らに『ムラサキヤシオ』が！眩いばかりの新緑を背景に立つ姿は、まさに森の佳人です。花の色

はピンクに少し紫を交えた上品な色合いです。三センチ余りの広い漏斗形の花は、白い雄しべを10本、きちんと上向きに揃え



て咲いています。かねてからの念願の花に、息をのむ思いで対面しました。“紫色に何回もつけて染めあげたツツジ — 紫八染”（山と溪谷社 日本の樹木）何と優しい名をつけたこと、昔の人の直観力の鋭さに感じ入りました。

いよいよ白水湖畔から大倉山登山道へかかり

ます。道はよく整備されています。背丈程のチシマザサの茂る下に、びっくりする程大きなスミレサイシン（スミレサイシン）の葉・オオカニコウモリ・チゴユリ・ハリギリ、目をあげるとヒロハユミの大ぶりのの花がぶら下がっています。タムシバ・オオカメノキの花の清らかな白さ、タムシバの葉をちぎると、爽やかな香りが立ちのぼります。ブナ・ミズナラ等の木を通してくる光は心も体も洗われるようです。道の左右のアカモノ・イワカガミの花はこれから盛りを迎えます。

大きなブナの木の下に、ツマトリソウが咲いていました。開いたばかりの花3輪、蕾が2つ緑の葉が輪状に白い花を支えて、何と端正な形でしょう。これに会えただけでも、息を切らせて登ってきた甲斐があります。チシマザサの中にタケシマラン・オオバユキザサ・ツバメオモトそして所々にムラサキヤシオが彩りを添えています。エゾユズリハの新芽も輝いて、ヒメモチの花は愛らしい咲いています。

歩き始めて2時間余り、ダケカンバが出てきました。艶やかな樺色の幹、葉の若緑、枝を四方にひろげ谷の方に傾きながら風雪に耐えている力強い姿でした。ここで、お弁当。遠くの方に残る雪を眺めながらいただく味は格別でした。

下りはブナ・ミズナラなどの大木の全体の姿がよくみえます。どの木も3～4人でやっと抱えられる程の太さ、四方に枝を伸ばし、何かを語りかけるような様々な枝振り、幹に熊の爪跡を残しているものもあります。花盛りのエゾユズリハ・ヒメモチにオオバクロモジなど裏日本の植物の特徴を心に刻みながら下りました。

白水湖のエメラルドグリーンと周辺の山々の緑に、時を忘れてしまいそうです。もうそろそろ帰路につかねばなりません。又の機会があるならば、と本当に名残り惜しい思いです。はるか下の方に見える河床のドロノキは銀色の葉裏をひるがえし「さよなら」と手を振っているようです。

皆様のご好意で、心楽しい印象深い二日間を

過ごすことができました。若葉を透けてくる光が、ムラサキヤシオの花の色が、白い花の清らかさが、何時までも心に残ることでしょう。

本当にたのしかったです。

## 神田川自然観察会（7月7日）

東三支部 戸河里光雄

梅雨の合間の晴れという絶好の天候に恵まれ神田川観察会が行われました。8時50分に指導員集合。参加者も徐々に集まりだしました。

9時30分、約30名の参加者と14名の指導員が集まり、武田会長の挨拶、指導員紹介をして観察開始。

川原の石はチャートが殆どで石灰岩・緑色片岩等は少しでした。石の形が角張っていることから上流部の様子といっていることがわかります。植物ではツルヨシ、「ヨシかアシかわからないけどヨシのほうがアシよりいいのでは」といった冗談を交えながら川原の植生にふれました。砂地で水に近い割りに、水が得にくいので植物もそれにあったものであることがよくわかりました。

川を気温29度、水温22度、水流0.8 m/秒と物理的にとらえ、さらに水質を化学的に知ると

めの検査をしました。亜硝酸・アンモニア・COD・酸性度といった検査を行い、きれいな方の水であることが確かめられました。

アメンボ観察さらに石についている生き物を探しました。トビケラ類、カゲロウ類、サカマキガイ、ヒラタドROMシなどが見られました。これらは、きれいな水から、ややよごれた水の指標生物でここの水の様子を知ることができました。

さらに、探せるだけの生き物を川の中から見つけました。タイコウチ・イシガメ・ドジョウ・オタマジャクシ・カワニナ・ヨシノボリなどが瞬く間に集まりました。さらに、感動的だったのが、ヨシノボリのたまご、もう目が見えているものもあり、これだけで今日の観察会はよしという感じでした。そして、まとめ。ゴミの問題にもふれ終わりました。

5月に尾張支部が犬山で「ボーイスカウト対象観察会」を実施しました。参加した子供たちから多くの感想文を寄せてもらいましたがその中の1編を紹介します。

自然に触れて

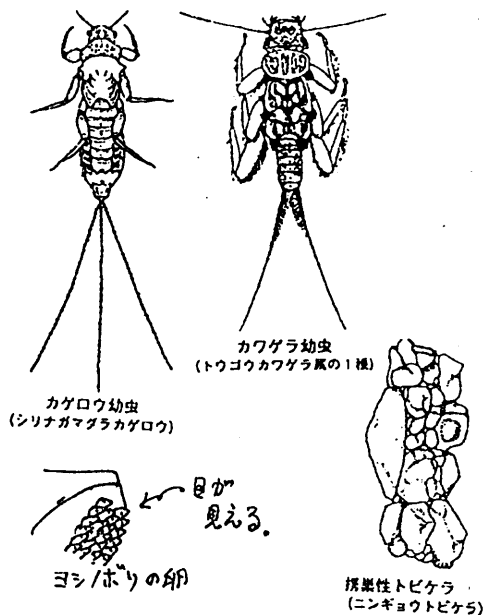
早川和久

ぼくは、ボーイスカウト活動の中で、ゆっくり歩き、そして植物をゆっくり見るハイクは本当にはじめてだ。このハイクをやって感じたことは、自然の厳しさ、病気、いろいろなことを知りました。

自然の病気には、とくに驚きました。葉っぱにできものができ、その中にアブラムシが入っていた。これは植物のガンだと言って、植物にも成人病があるんだなあとおもった。

あと、きれいな川では、あまりみたこともない、小魚がたくさんいました。しかし、ぼくはつかまえられなかったのであまり実感はなかったです。

この自然ハイクを通じて、自然のすばらしさ厳しさをつくづくおもいました。またこういう機会をつくって自然に触れたいと思います。



## 面の木峠ブナ原生林観察会（7月14日）

尾張支部 北岡明彦

大好評だった大白川ブナ林観察会の続編として、7月の月例観察会が北設楽郡の面の木峠ブナ原生林で行われました。

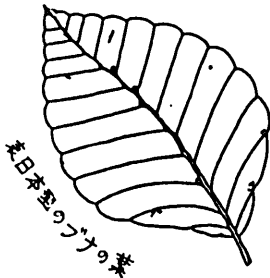
愛知環状鉄道山口駅を午前8時45分出発。天候は曇天・強風で少々心配。

面の木峠に定刻10時に到着。やはり曇天・強風で肌寒いほど。参加者は大人11人・子供5人とやや寂しい。園地のヤマボウシは終わりがけながら、白と緑のコントラストが美しい。

（余談；ヤマボウシの花の白い部分は、花びらではなく葉の変形です。）このヤマボウシを始め、タンナサ



ワフタギ（別名；白骨木 — 樹皮が白く骨っぽい）・イヌシデ・クマシデなど、先月の裏日本型ブナ林には全く見られなかった樹木が多い。2回続けて参加した方はその違いがよくわかったと思います。残念なことにちょうど花が少ない時期で、黄色のダイコンソウ、白色のアカショウマ、ヤマトウバナ、紫のウツボグサが見られた程度。



しかし、面の木の神髄は何ととっても直径1mに近いブナの大木、特にその力強い姿・多雪地帯を好むブナが、ぎりぎりの条件の中で、力の限り生きてきた姿!! 何度みても、心から感動してしまう。下から見上げたブナの枝ぶりは本当

に美しい。今日はこれだけで充分満足。

この感動を多くの人に知ってほしい。そして

森の不思議な仕組み、多くの動植物をもっと知って欲しい。そうして森林を大切にすることを育もう。樹齢300年のブナの大木達が私たちにそう呼びかけているような気がする。

送られてくる他県の自然観察指導員協議会の

雑誌「自然」の一部をご紹介します。

〔青森県〕ブナの木31（91.7.1）

ゲンジホタルキャンペーンを実施中で会員から情報をもとに、ゲンジホタルの北限調査（特に下北半島を中心に調査）の記事。

〔埼玉県〕あらかわ通信（91.7.25）

5月26日実施の「大宮の自然に親しむ会」が多く参加があったのは広報活動がうまくいったからとその方法を紹介。

〔神奈川県〕グリーンタフ自然観察（91.8）生態写真の募集記事や見学施設として環境科学センターの紹介など情報重視の編集。

〔山梨県〕ノラ・やまなし（91.8）

本会の33号に「新米MaMaと環境問題2」を転載させて貰いましたが、まさに手作り機関誌。今号は「大菩薩嶺の福ちゃんでの総会」のことや「第1回山梨の自然・歴史環境を考えるフォーラム」など情報満載。

〔滋賀県〕自然観察指導者連絡会（91.5）

総会の報告がメイン。活動の基本方針・基本理念はなかなか私たちにも考えさせられる内容。

〔熊本県〕自然観察（91.6）

九州背梁の原生林・日本のウミガメの現状等、読みごたえのある記事が多い。42頁で編集されている。

※ 総会など皆さんが集まる機会に展示をする予定ですが、どうしても読みたい他県の機関誌がありましたら編集部会までお知らせ下さい。コピーしてお送りします。但し実費相当いただきます。

# 支部だより

◇東三支部◇

10周年を迎えて



武田孝夫

私たちの支部が発足して今年で10周年を迎えます。年当初の総会で記念行事のことが話題となりました。担当の委員会を作り、そこでいろいろな案が検討されました。この程、下記のような行事を行うことで意志統一が出来ました。他支部の皆さんも是非お出かけ下さい。お待ちしております。

また、10周年記念して記念誌「東三自然観察会10年の歩み」の発行・記念グッズの販売等を計画しています。

今後ともよろしくご指導下さいますようお願いいたします。

## 10周年記念行事

1. 日時 9月15日(日)

2. 場所 葦毛湿原・長尾池池畔

## 3. プログラム

①葦毛湿原ミニ自然観察会 16:00~17:00  
(定員 100人)

②トーク&コンサート 17:30~19:30

・トーク; 葦毛湿原に関わった人の話

『私の考える葦毛湿原の良さ』

・コンサート; 豊橋ウィンドアンサンブルの演奏

(定員 200人)

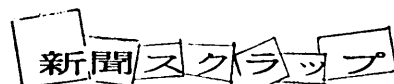
## 4. その他

・参加は無料ですが、拾った空き缶を2個もってきて下さい。

・参加申込み及び問い合わせ

鈴木友之 ☎0532-61-8930

キガイ・ヨシノボリ・モクズガニ・シジミ・アメリカザリガニ・セスジビル・ヒル・イシガメ・サホコカゲロウ・タマムシ・コムズムシ・ガガンボ・ヒメモノアラガイ・ツチガエル



愛知県内の名古屋版・東三河版・・・などに載った自然に関わる記事を紹介します。

## ◆珍しい!アワフキ虫◆

名古屋・東山公園の一万歩コース近くで子供達と自然観察会をたのしみました。子供達が、木の枝に泡の塊を見つけました。中には虫がいました。アワフキ虫で正式にはシロオビアワフキでセミやカメムシの仲間です。(略) 自然観察指導員 堀田守・朱雀英八郎

(91.6.2 中日)

## ◆東濃のシデコブシは世界の宝◆

日本シデコブシを守る会の創立を記念した集いが16日岐阜県恵那市の東野公民館で開かれ、シデコブシの保存、保護に向けて、さらに運動の輪を広げていくことにした。

(91.6.18 中日)

## ◆明かり「公害」で星見えにくく・・・◆

美しい星空が、地上の明かりで見えにくくなっていることが、アマチュア天文同好会「サザンクロス」の県内の星空調査でわかった。7年前と比較すると名古屋周辺や三河山間部で悪化している。

(91.7.1 朝日)

## ◆自然を残した公園造りを◆

名古屋市内に残る丘陵林では最大規模の東山・平和両公園の自然観察を続けている「平和公園自然観察会」と「東山公園自然観察会」は5日、名古屋市東山公園総合事務局で担当者との懇談会を開き「人工的なものを加えないで、ありのままの自然を残す公園造りをしてほしい」と要望した。

(91.7.6 朝日)

◇知多支部◇

加藤寿芽

7月28日の阿久比川観察会で確認出来た生物は以下のとおりです。

プラナリア・タイコウチ・ミズカマキリ・タニシ・ドジョウ・コガタシマトビケラ・サカマ

◆「ウシモツゴ」豊田の天然記念物に、◆

豊田市で、絶滅危惧種に指定されている淡水魚「ウシモツゴ」の生息環境調査をしていた豊田市ウシモツゴ調査委員会は市に対し①ウシモツゴ、カワバタモロコを市の天然記念物に指定してほしい。②学園整備構想区域内の貴重な動植物を乱獲から守るための緊急措置を検討してほしいと提言している。

(91.8.10 毎日)

◆絶滅の危機 ウミガメを救え◆

知多の海をアカウミガメの安全な産卵場にした —。南知多ビーチランドが、今年の夏からこの地方で初めて「ウミガメ絶滅防止キャンペーン」にとりくんだ。市民からの連絡でこの一ヶ月半の間に知多半島の三カ所で卵を安全な場所に保護した。

(91.8.15 毎日)

## 廃品を利用した実験観察器具の工夫 ③

竹内 哲也

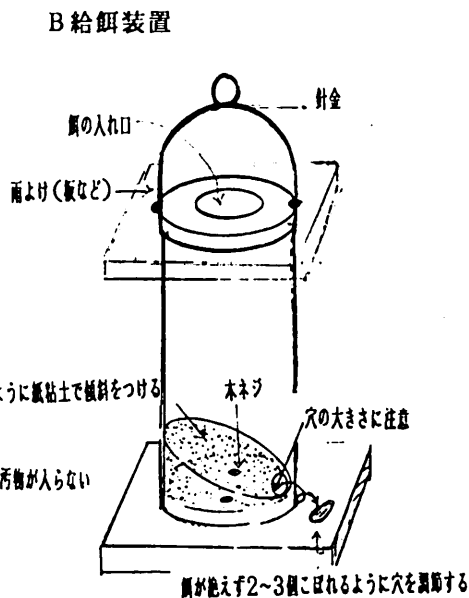
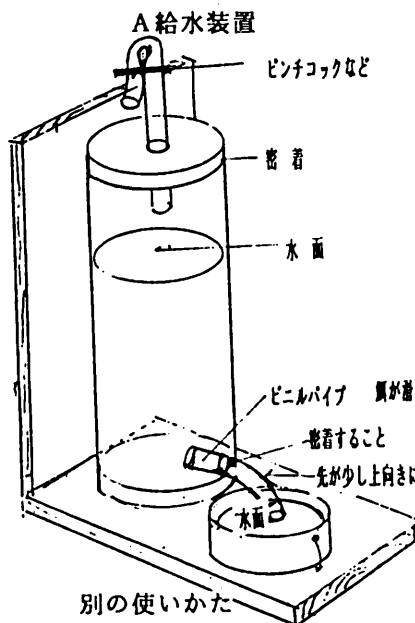
身近に野鳥を呼び寄せることは、大変楽しいが、本当の自然観察とは認め難い。野鳥の愛好家や研究者にいわせると、「特定の野鳥を増やすことは、自然のバランスを壊す」からであろう。しかし、素人がどの鳥がどんな餌を食べるか、いつ、どれぐらい食べるかを知るための研究的な立場で許してもらい、以下に給水装置・給餌装置の作り方を紹介したい。

図示した装置は、野鳥の水飲みのほかに、小規模な発芽実験や、挿し木するとき、水位を一定に保つのに有効である。栽培実験での水切れは

致命傷である。忙しい者にとって、失敗しないように栽培容器に絶えず新しい水を供給（腰水式）これは、水を入れた空き瓶を逆さまにしてよい。多量の培養には、給食手洗い用オスバン液のポリタンクの口を加工して、利用したり、2ℓ瓶を逆さにしてつかっている。

制作に必要なもの

ビニールパイプ・板・木ねじ・針金・接着剤  
ピンチコック・はさみ・鋸・ドライバー  
金槌など



## 蛾眉の誘い ヒメヤママユ

尾張支部 北岡明彦

「蛾眉」とは古代中国の時代から美人のまゆの典型として有名ですが、読んで字の如くガの触覚のような三日月型の眉のことです。

みなさんは、この蛾眉をじっくり見たことがありますか？

夜に山中でライトトラップを行うと、実に様々なガが集まってきます。そんな時の観察のポイントをちょっとあげてみます。

- ① 何といっても、ガの羽根の色・模様の美しさを満喫する・・昼間に比べると色が輝いて見える。
- ② 飛来したガの食草を図鑑で調べ、周囲の植物相と比較する・・周囲に食草が全くない種類が意外にいることにびっくりする。
- ③ 飛来するガの種類と時間経過を調べる。

- ④ おまけに、蛾眉の美しさを満喫する・・改めて古の人がいかに自然に親しみ、自然をよく観察しているかを知ることができる。それに比べて私たちの生活は？

写真のヒメヤママユは代表的な秋のガで9月から10月にかけて山地帯で見られます。一度、蛾眉の美しさを味わって下さい。



## 編集後記

32号から順調に(?) 今回の35号まで発行できました。

32号 — (できあがって) あれれ... こんな薄い紙のはずじゃなかったのに、見本を添えて印刷屋に回したのになぁ〜(世の中、思った通りいかないねえ、これからが心配)

33号 — ちょっと、インクがうすいんじゃない、字がかすれた感じとのご意見(よ〜し、今度は十分濃い目に)

34号 — インクの濃さ、十分。満足、満足で待てよ、ちょっと濃すぎて写真がシャープさ欠けると違うかな... (あちら立てれば、こちら立たず)

35号 — 夏休み。時間は十分ある、予定通り編集して早く山へ行くぞ(と考えたが19日現在もワープロをまだ、たたいています。皆さん原稿の期限はきちんと守りましょう。)

36号の内容についてのご協力のお願い。

県内には、私たちのような観察会をはじめ多くの自然観察グループ、自然保護団体があります。単独で活動しているところもあれば組織的に活動しているところもあるかとおもいます。

どのような団体があるか調べ会員の皆さんに情報提供したいとおもいます。ご自分が参加されている自然観察団体等をお知らせ下さい。36号でまとめて掲載したいと思います。

お教えいただく内容は

- |          |       |
|----------|-------|
| ・会の名称    | ・代表者  |
| ・連絡先     | ・活動内容 |
| ・入会方法、資格 | ・会費等  |

36号(11月号)の原稿締切りは10月10日です。

編集部会

〒440 豊橋市多米中町1-12-3

神戸 敦

☎ 0532-62-5308

# 9月～11月の行事案内

\*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先

④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

## 【9月8日（日）江南市草井観察会】

①尾張支部 ③斎竹善行 ☎0587-37-7616

④特異な河原の動植物の生活

## 【9月8日（日）県境、下伊那の施設見学及び自然観察】

①奥三河支部 ②国道151号新野峠10:00

③石川静雄 ☎05362-2-1171

④支部会員研修 ⑤会員・一般

## 【9月14日（土）～16日（月）自然観察指導員講習会】

## 【9月15日（日）猪高緑地観察会】

①名古屋支部

## 【9月15日（日）トク & コンサート in IMO湿原】

①東三支部 ②葦毛湿原

③鈴木友之 ☎0532-61-8930

## 【9月17日（火）観望会】

①知多支部 ②空の科学館 18:00

## 【9月22日（日）豊田自然観察の森観察会】

## 【9月22日（日）藤原岳観察会】

①愛知・三重協議会合同

②三岐鉄道西藤原駅前9:00

③北岡明彦 ☎0561-84-2953

## 【9月23日（祭）「磯の生物」観察会】

①県委託（知多支部） ②野間大坊 9:00

④タイドプール、岩場などの生き物

⑤一般・無料

## 【10月6日（日）緑の少年団自然観察会】

①東海市（知多支部）

②東海市大池公園動植物資料館 9:30

⑤知多・東海・大府・半田・常滑・武豊の  
緑の少年団

## 【10月6日（日）渥美の自然を守れ！伊良湖フォーラム91】

①渥美自然の会（日本自然保護協会後援）

②伊良湖ホテル（渥美町伊良湖）11:30

③大羽康利 ☎05314526-2607

④講演「渥美半島の地形・地質」池田芳雄氏  
スライド「四季の彩り渥美半島」須ヶ原光弘氏  
講演「伊良湖のタカの渡り」松田輝雄氏  
活動報告等

⑤無料

## 【10月11日（金）草花遊び】

①知多支部 ②阿久比中央公民館 18:30

## 【10月13日（日）月例観察会】

①尾張支部 ②瀬戸市岩屋堂

## 【10月13日（日）隔月観察会（平針）】

①名古屋支部 ②針名神社 9:30

## 【10月27日（日）自然観察会（小幡緑地）】

①名古屋支部

## 【10月27日（日）豊田自然観察の森観察会】

## 【11月2日～3日指導員研修会】

①協議会

## 【11月3日（日）財賀寺観察会】

①東三支部 ②豊川市財賀寺

④晩秋の森の観察

## 【11月8日（金）生物の冬越し準備】

①知多支部 ②阿久比中央公民館 18:30

## 【11月9日（土）～10日（日）鈴鹿山脈の自然を訪ねて】

①知多支部 ②東海市農業センター 9:30

## 【11月17日（日）豊田自然観察の森観察会】

①知多支部 ②東海市農業センター 9:30

⑤会員研修

## 【11月24日（日）豊田自然観察の森観察会】

